


生薬解説 269 たー14

音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
たー14	<p>たくらん 沢蘭</p>  <p>シロネの開花期全草</p>	<p>中医学生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説</p> <p>苦・辛・微温 肝・脾・腎</p> <p>中医生薬解説</p> <p>活血祛瘀 血瘀による無月経、月経痛、月経不順、腹腔内腫瘍あるいは産後瘀阻の腹痛などに、当帰・白芍などと用いる「沢蘭湯」。</p> <p>打撲外傷の内出血による腫脹、疼痛に、乳香・没薬・三七などと用いる。</p> <p>瘡瘍腫毒（皮膚化膿症）に、金銀草・生甘草・当帰などと用いる。</p> <p>利水退腫 産後の水腫や血虚浮腫に、防己など利水消腫薬と用いる。</p> <p>参考 沢蘭・益母草は行血祛瘀、利水退腫に働き、月経不調、経閉痛経、産後瘀阻、浮腫、小便不利に用いられる。 益母草は涼性に偏し、血熱有瘀に適し、利水の効力は沢蘭に勝る。沢蘭は舒肝和營、活血通経に働き、効力が緩和で峻ではないので、瘀血阻滯には寒熱を問わず使用できる。</p> <p>使用上の注意 薬力は緩和で峻ではないが、活血のみで補血の効能はないので、瘀血がなければ用いない。</p>	6～12g、煎服。外用には適量。